

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

民営化につきましては、今現在、所管の担当課で方針といいますか、それを検討中でございます。ご質問の民営化による地元雇用のというところではありますが、今現在は、臨時職員の方が民営化することによって、民間保育園の正職員になるという、継続雇用というようなメリットもあるというふうに思っておりますが、来年度から会計年度職員というような制度もございますので、その辺は十分検討していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひこれ一例でございますが、ぜひご検討いただいて、課題が多くあろうかと思えます。ぜひ検討していただいて、雇用に結びつく、また地元へ帰ってきていただけるような環境づくりに努めていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

以上で、質問を終わりたいと思えますので、ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

吉川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

14時50分まで、暫時休憩といたします。

〈午後2時37分 休憩〉

〈午後2時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

1回目の質問をさせていただきます。

市内企業の人員確保について。

- (1) 市内（ハローワーク糸魚川管内）の現在の有効求人倍率は、どうなっているか。
過去5年間の有効求人倍率の推移は、どうなっているか。
この状況を行政として、どのように捉えているか。
- (2) 看護師、介護士等で人員不足が問題視されていますが、他の業種の状況はどうなっているか。
- (3) 昨年度の市内新規高卒の就職者は、何人いたのか。
そのうち市内に就職した人数は、何人か。
男女別では、どうなっているか。
この現状を行政は、どのように捉えているか。
- (4) 現在の市内の外国籍を持った労働者は、どの程度いるのか。
今後、市内企業においても外国人労働者の受け入れは不可欠と考えていますが、行政はどのように捉えているか、考えているか。
それに対する施策をどう考えているのでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、26年度から28年度は横ばいでありましたが、29年度からは上昇傾向となり、31年4月の有効求人倍率は1.77倍と、人手不足が顕著にあらわれていると捉えております。

2点目につきましては、建築・土木技術者や機械整備、接客などの職種で人手不足が強い状況であります。

3点目につきましては、31年3月卒業の民間企業就職者は86人であり、うち市内就職者は46人で、男性が37人、女性が9人であります。求人に対して求職者が大幅に少ない状況が続いており、大変厳しい状況と捉えております。

4点目につきましては、5月末現在で、永住者等を除く就労が認められている在留資格を有する外国人は146人であり、今後も外国人労働者はふえるものと予想されることから、適切な就労支援が必要であると考えております。

以上、質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、ハローワーク糸魚川へ行きました。いろいろ資料をいただきました。その数字をちょっと読ませていただきます。

最近の雇用・失業情勢、先ほど市長からいただきましたけど、有効求人倍率、これパートを含んだ全数、26年度は1.17倍、27年度が1.22倍、1.35倍、1.56倍、30年度が1.7倍、これパートを含む全数ですので、正直な話、景気だとか、いわゆるパートタイムで短期間のという部分も入ってるかと思えます。そうじゃなくて、パートを除く常用という部分がありまして、これですと26年度が1.34倍、27年度が1.17、28年度が1.32、29年度が1.54、そして30年度になりますと2.05倍と、これはいわゆる常用で、糸魚川に住みついて、女性の方とか奥さんあたりが、ちょっとした合間にとということじゃなくて、本当にその仕事をという部分だと思うんですけど、もう2倍を超えているという状況だと思えます。30年度に関しては、求人数が6,473、それに対して求職者数は3,165、差にしますと、あれです。そういうことで約2倍もの求人があるということです。これについて、改めてちょっとお伺いしたいと思いますけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当市におきましては、人口減の影響もあり、労働力不足が顕著になっております。特に先ほどもご紹介しましたが、建築・土木技術等では、この4月の有効求人倍率、フルタイムでございますけれども1.7倍となっており、また機械整備・修理の職業ですと2.3倍になっております。

一方、一般事務員につきましては、0.43倍ということで、当市の基幹産業であります製造業、建設業に係る労働者が不足しているものというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川では、このいわゆる求人をして、なかなか集まらない、そういう状況の中で、全国的には、いわゆる人員の確保ができなくて廃業に陥るといふ部分があるかと思うんですけど、糸魚川の場合は、その点まだそこまでは行ってないんでしょうか。それともやはり顕著にあらわれてきているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市長からの答弁にもございましたように、人が少ない職業の中には、接客、給仕というものもございまして、これはパートでございますけれども、この4月現在で2.9倍というふうになっております。ということで、市内の飲食店の中では、労働者不足により、営業が続けられなくなったというふうな形での廃業ということも、漏れ聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

これ2番にも関係あるんですけど、今言ったようにかなり、私のデータですと事務職が0.6倍、運搬、清掃、包装などという、これハローワークの分類なんですけど0.42倍と、いわゆる割かし体を使わない、汗をかかない仕事が割かし求人倍率が少なく、今言われたように、いわゆる体を使って汗をかく、汚い仕事、昔3Kなんて言いましたけど、そういう仕事がいかに集まらなくなってるか。

私もデンカにおりました関係で、その後に大工さんの関係の工務店とデンカの協力会社、機械屋のほうで安全なんかの担当しておりましたけど、まさに正直な話、集まっても、極端な話、1カ月もするととか、ひどいところは3日来るけど3日したらもう来なくなるという若者が、かなり多いという話を聞いてます。現状は今、みんな40代、50代、さては60代も働きながら現実やっていますけど、大企業も、デンカさんでさえ人がいないというふうに聞いてます。それを支える協力会社、運搬でありますとか、鉄鋼関係ですとか、電気だとか、いろんなこと、例えば資材のそういう部分も含めて、本当に求人難で、大企業といえども本当に未来がなかなか厳しいなという状況だと思うんですけど、その点について、どのようにお考えなのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

製造業関係の大手の企業ですと地域経済に及ぼす景況というのがかなり大きいわけでございますけども、それを取り巻く補修ですとか管理をしたりする関連会社の従業員も、また重要でございます。また、雇用促進協議会等でお話をお聞きますと、そういう製品を運ぶトラックの運転員もかなり不足してるという状況もお聞きしておりますので、労働力不足が当地域の産業に及ぼす影響は大きいと感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

本当はかなり厳しくて、さて、糸魚川が持続可能なという言い方してはいますが、本当にこれで持続が可能なんのでしょうか。私は何か大きく本当に大変なことだなというふうに考えます。

そこで、やはり糸魚川で働く者をいかにふやすか、そうしない限り、先ほど笠原議員のほうで企業誘致の話がありました。それも大きく進めていかなきゃいけないと思うんですけど、現状にある企業が、人がいないために、そちらのほうをもっと厳しいんじゃないかというふうに考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり、国全体においても労働力不足というのが顕著になってきております。そこで、

国でも出入国管理法を改正しまして、外国者の労働を受け入れる環境整備というのを進めてきとるわけでございまして、地方都市においても同様であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

そこで、3番目のほうの先ほど市長のほうからありましたけど、市内、いわゆる3校の卒業生の就職希望者数が86名、男子が60名、女子が9名です。この男女の差についてどのようにお考えなのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるように、この4月の管内の就職状況につきましては、男性が37人に対して女子が9人ということをございます。当地域に、女性が活躍できる企業、そういう勤めてみたいという企業が少ないのかどうかということもございますけども、お話を聞いてみますと女性については、一度は都会のほうに出てみたいということで、専門学校なり大学へ進まれる方もおられるというふうに聞いております。またそこを卒業されて帰ってくる受け皿について、何と申しますか就職を希望する企業があるのかなのか、その辺もちょっと検証してみる必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

昨年、いわゆるこの3月じゃなくて昨年は、就職希望者が116名、男子が71、女性が45でした。それに対して、ことしは86、男子が60の女子が26名という、完全に女子のほう下がってきている。これ言われるように糸魚川市内で、さて、女性の仕事がないのかどうなのか、そこらあたり、ハローワークの求人関係の数字的なものは、男女別の関係がわかりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ハローワーク糸魚川管内につきましては、前年の数字は、男性が48名、女子が19名というふうに捉えております。

失礼しました。求人でございます。

ハローワーク糸魚川管内の求人につきましては、昨年度が227名、本年度が241名ということで、求人の数はふえております。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いかに女性の求職者をふやすかが、今後の人口問題にも大きな影響があるんだというふうに考えてるんですね。というのは、やはりまだまだ日本は、女性が男性のところに行くと嫁に行くという習慣が、これ世界的にも同じだと思うんですけど、そうすると若いとき、高校を出て、それこそ青春時代といわれるものを糸魚川以外で過ごすと、そこで恋愛したり、そういうことで出ていく方が多いんだというふうに私は考えるんですね。そのためには、女性をいかに、この糸魚川に残すかが今後の人口問題で大きな課題ではないかというふうに考えてるんですけど、市長、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、山本議員のご指摘の点もありますし、そして、最近の働く状況におきましては、昔は結婚されて、男性は仕事、女性は家庭というような割り振りがあったわけではありますが、現在は、ご夫婦とも働くような状況になっております。そのことから、我々糸魚川市といたしましても、その対応をしていかななくてはいけないということで、保育所の対応だとか幼稚園、そしてまた、病児保育、病後児保育などもいろいろやってまいっております。

そのような対応をしながら、今、議員ご指摘のような点についても、やはりしっかり対応していかななくてはならないんだろうと思っております。それには女性が働きやすい、また働ける環境づくりをしっかりと支援していかななくてはならないんだろうと捉えておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私自身の話をさせていただきますけど、私は3人兄弟で、長女、長男、私は末っ子の次男坊でした。当時、私みたいに、いわゆる「おじ」と言われる次男坊以下は、糸魚川出るのが当たり前という風習があったと思います。でも私の場合、母親が伊豆の下田から嫁いできた関係でさみしかったのかもしれませんが、糸魚川に残ることを当たり前というふうに教育されたように思うんですね。それでまだずっと糸魚川にいるんですけど。

私、親の気持ちがかなり、やはり重要なんだというふうに思うんですけど。そういう面で、親の教育ということが必要だというふうに思うんです。ここで私のあれをしましたけど、市長、じゃあ逆に言うと、この糸魚川に残った理由、もしよろしければちょっとお話しただければと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は兄弟2人で、妹と私でございますので、当然、自分自身は親の言うこともなく、親から指摘を受けることもなく、またここに残るのは自分自身で覚悟を決めておりました。

今、議員ご指摘のとおり、やはり子供さんたちは、親の意見というのは十分今聞く環境だと。就職するにしても、相談するにしても、やはり親の意見を十分尊重しとるということを聞くわけでございます、そうなりますと親の皆様方がここに残ってもらえるような、子供に指導していけるような環境づくりが大事になってくるんだ。それには企業の皆様方とやはりしっかりと連携をとりながら、受け入れ体制を整えていくことが大切かなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、2年ほど前に支援室がありますね、企業支援室が行った高校生の親子を対象にした講習会があったと思うんですね。私それを受けさせていただきました。

ところが、そのあれに親子2人だけが参加で、あともう一人、報道の関係でしたかね、3人しか参加してなかったんですね。実際には、それで話は、いわゆる大学を出す、専門学校を出すには、例えば4年制の大学というと千何百万かかるよという話はされてました。その参加した子供に聞きますと、こんなに大学出るといのは金かかるの、じゃあ本気になって勉強せんならんねとか、やっぱりそういう話があったと思う。すごく有効な会だったと思うんですけど、残念なことに本当に少ないんですね。私はそういうふうな会を、それこそ今うまいぐあいに3校、いわゆる市と3つの高校が連携されてます。ぜひともそういうふうな会を学校ごとであるとか、本当に親子を含めた会でやって、少しは意識の改革をしていかなければ、やはり厳しいんじゃないかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

進路につきましては、あくまで本人が決定するということになりますけども、やはり本人が決定するまでの課程で、本人と保護者も含めて、しっかり糸魚川のことを知っていただく。そういった中で、やはりインターンシップですとか、ふるさと教育をしっかり進める中で、本人がどう選択するかの中に糸魚川を入れるように取り組みを進めていく必要があるというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足してお話しさせていただきます。

昨年、糸魚川高校での総合学習の中で、働く人の話を聞く会がございまして、そこでのアンケート結果によりますと、高校卒業後の進路決定に当たり、相談した人、したい人ということで、母親と父親が、合わせて63%ということになっておりますので、かなりの影響力があるというふうに感じております。

そのことから、前回の会では、残念ながら少ない人数だったんですけども、このような回を重ねていくことが有効であるというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほどの答弁の中で、女性はやはり一度は家を出てみたいという話がありました。私は、市内に、いわゆる独身女性専用の市営住宅、安全管理もいい、セキュリティーも効いてる、一度は市内でそういうひとり暮らしをさせるぐらいの、やはりそういうことも必要なんじゃないかというふうを考えるんですけど、これかなり特殊な考え方かもしれませんが、その点、検討する必要があるような気がするんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな観点の中から、施策としていかになくちゃいけないんだろうとあっておまして、1つの課だけでつくるというのは、なかなか難しいんだろうとあっております。そういう中で、もうやはり魅力あるまちづくりというところになるんだろうと思うわけでありまして、議員ご指摘の点も含めて、そういったところをどう捉えていくのか、今、高学歴社会が参っておるわけがございまして、そういう中で、やはりよそへ出て学ぶという事柄が多くなっておるわけでありまして、子供さんにしてみれば、また我々もそういうときもあったかもしれませんが、よその世界も見てみたいという気持ちもある部分があるかと思えます。そういったところもやはりどのようにそれをしながら帰ってきていただけるか、またそこに住んでいただけるかというところの点がしっかりと考えて施策としてつくっていかなくてはいけないのではないかなというのを感じとる次第でございまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、糸魚川高校卒業で、同窓会にもう10年近く出ささせていただいてました。そこで、校長からの報告があるんですけど、その報告は、ほとんどがうちの学校からどここの大学に何名出した。それだけなんです。それを聞いてると、いわゆる県立高校の、いわゆる高校は、成績というか校長のあれば、やはりいかに大学に何人出すかが目的だったように思うんですね。正直な話、私も柔道

の関係で糸魚川におりましたけど、本当にこの子はと思う子も専門学校だとか、ほとんどがそういうところに、いわゆる教師が勧めます。ほとんど出ていっちゃう。むしろ就職することが、糸魚川高校では何かタブーみたいな雰囲気もあるというふうにも聞いてます。

幸いにも、ここへ来て、国のほうも普通高校の見直しということでなってきたと思うんですけど、本当に私は、地元を離れて本当に都会に出て行って、本当に幸せなのかな。親も子も本当に幸せなのかを問う時期ではないかというふうに思うんです。

もう私自身も高校を卒業して、結婚した後に東京の友達のところに行きました。本当に6畳一間とか二間ぐらいに、子供1人、2人、トイレは共同の時代でした。本当にそれで幸せなんでしょうか。糸魚川では、本当に広い庭のあるうちに住むこともできます。やはりそういうことも含めて考えていかなきゃいけないんだ。幸いにも、今、高校とのあれですので、国のほうもそういうことに気づき出してるというふうに考えておりますんで、ぜひともそういうことを含めて、3校と市と一緒に糸魚川のよさをアピールしていくべきだというふうに思います。その点について、またご見解をというふうに思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、高校、それから地元企業、あるいは市が入って、共同事業体（コンソーシアム）をつくって、高校の魅力化づくりを進めるということでございます。そういった中で、やはり高校生が地元に着していただく、あるいは一旦、市外へ出ても地元に戻してもらおう。また、帰ってくるのがかなわなくても、地元へ貢献してもらおう。そういった仕組みをしっかりと整える中で、地元で若者がふえるような取り組みを、ぜひ教育委員会としても積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。その部分は一生懸命頑張っていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひとも頑張ってくださいと思います。

次に、4番目の外国人労働者の件ですけど、現状、外国人労働者によるトラブルなんかはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、外国人を受け入れしている企業の皆さんからお聞きしますと、問題になるような大きなトラブルは発生していないというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も、ある企業の方から外国人労働者用の住宅をとという話で、寮みたいなもんですね、そういうふうなものを建設するんだというような話がありました。

先日のあれの中でも、やはり企業と市が一緒になって、そういう寮も考えたらどうかという意見もあったように思います。住居、外国人が糸魚川で働くためには、やはり仕事が一番だと思うんですね。当然、賃金含めてです。その部分については、もう限度があるかと思いますが、住居、生活の仕方、例えば食べ物であるとか、例えば外国人は運転免許がありませんので、本当に道を歩いていると国道を買い物に歩いている姿がたまに見えますよね、そういうようなこと。あと言葉の問題、宗教の問題、この宗教の問題、糸魚川ではあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現時点では、特段、宗教の問題はお聞きしておりませんが、ある自社で従業員寮を建てられた社長さんからお聞きしますと、海外から来られる方用に、何と申しますか従業員寮の中に宗教的なものを配置するスペースも整備しておるといふふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私たち日本人が日本で働くには、それほど大きな問題がないと思うんですけど、外国人がここで働くときに、かなりいろんなことがあるんだと思うんですね。言葉の問題だとか、いわゆるいろんなことあるかと思います。

そこで、私として1つ提案ということをしていただきたいと思います。

外国人労働者が、最も安全・安心に働けるまち糸魚川を宣言したらいかがでしょうか。というのは、逆に言いますと今、市長が本当に世界でジオパークということであつながつてるかと思います。その市なり町なりと、その職員を糸魚川市の職員として派遣していただき、糸魚川で労働者として働くには、何が必要なのか、住居も含めていろんなことを、そのことを中心に考える。その中で行政が、いわゆる企業と連携して、できるものをやっていく。そうすることが糸魚川には安心なんだ、安全なんだ。例えば東京だとかああいうところでは、いなくなるか、いわゆるパスポートが切れてるのにどうだというようなことがあるかと思うんですけど、糸魚川はこういうところですから顔が見えるのでないかと思うんですけど、そういうことが大事で、それによって外国人が糸魚川、安心できるんだよという部分が、それで、来て、働いていただけるんじゃないかというふう思うんですけど、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今の現状を考えたときに、地元の働く人たちがなかなか募集できないということになってくると、よそからおいでいただかなくちゃいけない。しかし、全国も同じような環境であるということになれば、一時的にしる、やはり外国からお手伝いに来ていただかなくちゃいけないわけがあります。

しかし、出すほうといたしましても非常に不安なところを出しては、やはりなかなか心配なところがあるだろうということになりますと、安心して出せるところ、今、議員ご指摘のとおりだと思っております。そこに、例えば市内におきましても企業、今、押しなべてどちらかという、中小企業が多いわけがございますので、なかなかそういうものが、なかなか対応できないということになれば、行政が入ることによって安心感がとれるんだと思うわけでありまして、例えば労働を求めるとしたら、どちらかという東南アジアが主体になるんだと思いますので、今は我々といいたしましても、どれだけでもやはりパイプのあるところにつなげていくことがいいかと思うわけでありまして、少しでもそういった環境の中で整えたいということもございまして、それは商工会議所とまた連携をとりながら、対応できればと思っております。やはり糸魚川に少しでもプラスになることに対しては、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

報道でよく、いわゆる外国人労働者を食い物にするという業者もあるというふうに聞いてます。その点で、この外国人労働に対する法的な整備もできてきて、いわゆるちゃんとした仲介人という形をつくらなきゃだめだというふうになってると思うんですけど、そういう機会でありまして、ぜひとも今、市長の答弁の中にも、いわゆる市、いわゆるそういうふうな公の施設というのはやっぱり信用度が高いというふうに思います。ぜひともそれを含めて、糸魚川が本当に外国人にとっては安心なんだ、安全なんだということが、それが糸魚川に来てもらえ、それが地元の企業が存続できる。存続できることによって、また新たな、例えば市内の事業所がなくなれば、それで事務職もなくなります。そうすると、事務が女性だけというふうには思いませんけど、女性の仕事もふえてくる。それによる人口もふえるんじゃないかというふうに考えます。ぜひとも本当に検討していただいて、やっていただきたいというふうに思います。もう一度、市長の答弁をお願いしたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、商工会議所、また一部の企業の皆様方がそういう方向でおられるということでございますので、それらの皆様方と少し情報交換をしながら、そういった方向を少し探ってみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

本当に人口問題が一番大きなネックなことだというふうに思います。本当に働く場所があっても、働く人がいなかったら、本当にますます沈んでいくというふうに思います。やはりここで何か大きなことをやらないと、本当に10年後、20年後、30年後の糸魚川がなくなるんじゃないかというふうに危惧しておりますので、ぜひとも前向きな姿勢で取り組んでいただければと思います。

山本の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

○議長（中村 実君）

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後3時27分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員